

会 議 議 事 録

会 議 名	令和 4 年度 学校関係者評価委員会		
開 催 日 時	2022 年 6 月 16 日 (木) 13:00～15:00		
会 場	東京福祉専門学校 第 3 校舎 2-4 教室		
参 加 者	委員等	8 人	卒業生代表：西田 憲司様（特養きく） 保護者代表：小野 裕子様 高等学校代表：高部 英彦様（正則学園高等学校） 地域代表：赤羽根 智英子様（くすのき さざなみ会） 業界関係者：池田めぐみ様（特養なぎさ和楽苑） ：若松 弘樹様（児童養護施設聖友学園） ：皆川 隆太様（就労移行支援事業所 natura） ：中里 武史様（東京都作業療法士会）
	事務局	12 人	東京福祉専門学校 学校長 小林 和弘 副学校長 白井 孝子 運営本部長 小川 昭久 事務局長 松川 勝吉 教務部長 西田 茂男 教務部長代理 堀 延之 事務部長 形本 裕子 福祉事業センター長 福原 康久 広報センター長 佐藤 祐子 キャリアセンター長 鈴木 恭雄 教務事務・コンプライアンスセンター長 坂本 美生 書記 吉岡 修平
会 議 録	1. 学校長挨拶（小林） 本日はご多用の中、2022 年度学校関係者評価委員会にご参加いただきありがとうございます。コロナも少しづつ落ち着いてきておりますが入院をされる方も 0 ではなくまだ一定数はいるという状態です。 そんな中でしたが、昨年の取り組みについて、自己点検、自己評価を行っています。 本日は、各お立場やそれぞれの分野代表として、本校の各取り組み等について「第三者の目」見ていただき評価とご意見をいただければと思います。ここは甘い、足りないなど、忌憚のないご意見をいただき、今後の学校運営や教育活動の向上に活かしていきたい所存です。 ご意見を頂戴いただけますようよろしくお願いいたします。 2. 2021 年度事業報告（松川）		

●学校概要

職業実践専門課程として認可を受けるにはされるためには自己点検自己評価を行いその上で学校関係者評価委員会を年 2 回行い、その内容を次年度の事業計画に活かしていくという物になります。もう一つ教育課程編成委員会というものを学科毎にカリキュラムを来年どうしていくかという会議を業界の方にお越しいただき行っています。

評価表に沿ってご説明をさせていただきご意見をいただいて評価をいただくという物になりますのでよろしくお願いいたします。

・沿革（抜粋）資料参照

今年度から校舎も一つ増えて 4 つになっております。

・組織目的

「新しい学び」と「現場体験プログラム」を通して専門職を目指す学生に「自ら考え行動できる主体性」と「他社と協働する力」が備わる学校となることを組織目的としています。

・ありたい組織像

本校は福祉・保育・リハビリの分野を目指す（入学生・在校生・卒業生）一人ひとり多様なニーズに対して、学園内外の資源を最大限活用し、顧客（学生）満足を叶える価値の高い学校となる。

そして、学生、教職員をはじめ、本校にかかわるすべての人がここで学ぶこと、働くこと、関わることを誇りに思える学校となる。

●2021 年事業報告

・入学者数

社会福祉科：39 名 IT ソーシャルワーカー科：8 名 心理カウンセラー科 37 名
社会福祉士一般養成科：40 名 精神保健福祉士一般養成科：42 名 介護福祉士科：55 名
作業療法士科昼間部：22 名 作業療法士科夜間部：29 名 こども保育科：83 名
キャリアデザイン科：27 名 総学生数：863 名

・中途退学者数

社会福祉科：7 名 心理カウンセラー科 7 名 国際福祉ビジネス科：0 名
社会福祉士一般養成科：1 名 精神保健福祉士一般養成科：2 名 介護福祉士科：24 名
作業療法士科昼間部：5 名 作業療法士科夜間部：2 名 こども保育科：5 名
キャリアデザイン科：9 名 総数：63 名（退学率 6.4%）

・国家試験合格率（新卒）

社会福祉士（4 年制）：46.2% 社会福祉士（一般養成）：88.1%
精神保健福祉士（4 年制）：61.3% 精神保健福祉士（一般養成）：97.0%
作業療法士（昼間部）：46.4% 作業療法士（夜間部）：66.7%
介護福祉士（3 年制）：84.2% 介護福祉士（3 年制・留学生）：16.7%
介護福祉士（2 年制）：96.7% 介護福祉士（2 年制・留学生）：31.3%
全国平均を割ってしまっている学科もあるのが現状となっています。

3. 自己点検項目説明（配布資料参照）

●教育理念・目的・育成人材像（松川）

理念・目的・育成人材像：評価3

3つの建学の理念

実学教育、人間教育、国際教育を学園の理念としても掲げております。

組織目的、育成人材像

「新しい福祉の学び」「現場体験プログラム」を通して、専門職を目指す学生に「自ら考え行動できる主体性」と「他者と協働する力」が備わる学校となる、と掲げております。

●学校運営（松川）

運営方針：3

事業計画：3

運営組織：3

「事業計画」にて単年度から5ヵ年の運営方針や組織を見直している。

人事・給与制度：3

2021年度より新人事給与制度を学園で実施をしている。

意思決定システム：3

各部署の会議による決定を最高議決機関である「運営会議」で承認

情報システム：3

クラウド上で運営できる業務システムやサイボウズガルーン、Teamsなどを活用している

●教育活動（堀）

目標の設定：3

教育方針・評価：3

学科ごとに毎年、関連業界や社会のニーズを踏まえて「教育目標」「養成目的」を設定し、学生便覧で明示している。また、各学部で教育課程編成委員会を組織して関連業界からの意見を取り入れている。

成績評価・単位認定：3

成績評価に関する規定は学生便覧等に明示しており、卒業・進級判定会議を通じて認定をしている。

資格・免許等の指導体制：3

国家試験を受験する学科については毎年合格率の目標を設定し、指導している。コロナ禍において、オンラインでの学習効果の検証や多様な学生に対する指導体制に関してまだ課題がある。

教員・教員組織：2

専修学校基準や養成施設基準に合致した教員を配置しており、各学部は学部長を責任者とした体制をとっている。しかし、教職員の質の向上への取り組みに関しては、コロナ禍で研修等が中止になったりなど、今後さらなる取り組みが必要となっている。

●学修成果（鈴木）

就職率：2

就職率については、担任とキャリアセンターの協力体制、他の職員を巻き込んだ就職支援に取組み、「職業人教育を通じて社会に貢献する人材育成」を目指し98.8%

の専門職就職を達成することができている。ただ、3月末の未就職が35名おり、最終決定は5月末であり、学生の早期就職意識向上と資格取得向上があげられる。資格合格率は学科よる差が大きく、抜本的にカリキュラムを変更する学科、資格対策講座の方法を工夫する学科など、対策も学科ごとに構築している。

資格免許の取得率：3

全国平均に対して大きく上回っている学科と下回ってしまっている学科がある
一般養成科は高校卒業してすぐの方が対象ではなく、既卒の方が対象の学科になっている。

作業療法（昼間部）については年々少しづつ合格率が下がってしまっており、今年は大きく下回ってしまった。

オンラインの授業としてしっかりと学生の把握に至らなかったという問題点があるのではないかと考えている。

国語力が低い学生が国家資格合格率に関わっているのではないかと考えて対策を行っていく。

卒業生の社会的評価：3

業界ヒヤリングや実習巡回で確認。1年未満の離職率は3.3%である。離職者に対しては、相談業務も行っており就職支援している。本年度からは年に3回状況確認、業界訪問を強化し把握に努める。

●学生支援（西田）

就職等進路：3

中途退学者への対応：2

介護福祉士科が12%という結果となっており、留学生の方がほとんどになっております。留学生の方への指導・サポートには大きな課題がある。

特に留学生への指導が課題。日本語能力、学習のみならず、学費、日常生活へのサポートの強化を図る。

キャリアデザイン科は学び直しをサポートする学科となっており、登校することが難しい方も多くいる学科となっているため、サポートがコロナ禍でしっかり行えなかった為9名という方が退学されてしまった。

コロナ禍の状況の変化に合わせた、集団「クラス」、個「学生個人課題」への指導、支援の工夫。及び教育プログラムによる学習・就職へのモチベーション維持、向上が必要と考えている。

学生相談：3

学生生活：3

保護者との連携：3

卒業生・社会人：3

●教育環境（形本）

施設・設備等：3

ICTを活用した授業展開・オンライン授業の充実のため、サーバーを拡充し、ネット環境を整備した。

施設実習は一部コロナ感染症対策により、学内での振替があるものの徐々に受入施設が広がっている。

学外実習・インターンシップ等：3

施設実習は一部コロナ感染症対策により、学内での振替があるものの、徐々に受け入れ施設が広がっている。

防災・安全管理：3

コロナ感染症対策のため全校あげての実施は叶わなかったが、学生向けに避難経路や防災行動の啓蒙動画を作成、全校生徒が閲覧した。

また消防による防火設備の点検も実施している。

●学生の募集と受け入れ（佐藤）

学生募集活動：3

新型コロナウイルス感染拡大以降、オンラインを活用したオープンキャンパスや入学選考（面接試験）を実施。社会情勢を鑑みながら、柔軟に対応した。高校への訪問やガイダンスを徐々に再開し、高校へ情報を提供している。更なる関係の強化に努めたい。

入学選考：3

学納金：3

入学選考や学納金は募集要項に明記している。見直しが必要な場合、その根拠が適正であるかを理事会・評議員会で決議し、決定している。

●財務（形本）

財務基盤：3

予算・収支計画：3

財務状況においては専門部署とともに予算の執行状況を分析・把握しており問題はない。

監査：3

財務情報の公開：3

法令にもとづき適切な監査を実施おり、財務状況については毎年決算終了後にホームページ上で公開を予定している。

●法令等の遵守（形本）

関係法令、設置基準等の遵守：3

学校運営に関係する法令・設置基準は順守しており、申請・届け出等も都度実施されている

2022年1月よりコンプライアンスに関わる専門部署を設置。学園本部とも連携し、法令順守の精度向上に努めていく。

個人情報保護：3

日本プライバシー認証機構による全職員向けの研修会を毎年実施している。

学校評価：3

教育情報の公開：3

ホームページ上で公開を予定している。

●社会貢献・地域貢献（福原）

地域貢献・地域貢献：3

地域共生社会構築の拠点として江戸川区より委託を受けている「なごみの家」「地域活動相談・支援センターかさい」や地域のこどもたちと保護者に対してプログラムを提供する「こども教室」など地域に根差した貢献活動に積極的に取り組んでいる。

これらの事業は地域貢献だけではなく学生が現場実践力を身につける貴重な学習の場としても機能している。

江戸川区からは潜在的介護人材の職場復帰や介護者の不安を軽減することを目的とした「介護はじめてセミナー」「介護の担い手研修」を委託され運営し、行政と連携した地域貢献をおこなっている。

ボランティア活動：3

コロナ禍のために大きな動きはできなかったが、「高齢者のためのスマホ教室」などいくつかの取り組みは実施できた。

4. 委員からの質問、ご意見

西田様

現職の立場から見た際に介護業界の職業人を見てきてはここ近年で大きく業界が変わっている。留学生が多くなっている。

採用という立場で見た時にはケアがプロとしてできる人材であるべきだが留学生の方の就職の目的（プロ意識）が違っていると思っている。

コロナや合格率の問題もあると思うが業界を学校中心として引っ張ってほしい。

高部様

2022 年は指導要領の改訂で新しいカリキュラムと大きく変化があった年であった。

成人年齢が 18 歳となった事によってどのように変化をしていくのか。

ICT 導入や留学生の受入等どんどん変化をされていると感じた。一人ひとりをしっかり見ていこうという姿勢も素晴らしいと思った。

→(松川)

18 歳について成人化によってトラブルに巻き込まれることが予想されるので入学前（導入教育）から全学生に来年から行っていくことを決めた。

通信環境に問題があった。ICT 教育の整備には教材等の準備等を進める為に教職員への負担、通信環境等ハード面の整備については同時進める必要があったが一定の環境を提供できるようになった。

マイクロソフトの Teams を利用し、ほぼ全授業が振り返り（個々のスピードに合わせて）を行えるようになってきている。本年度中には整備が完了するのではないかと考えている。

赤羽根様

清新町は外国籍の方が多くなり、すくすくスクールでは子ども同士でコミュニケーションをとれるようにしていると聞きました。留学生の方とのコミュニケーションをどのように工夫されているか聞きたい。

「高齢者のためのスマホ教室」はとても好評だったと聞いています。

→(西田)

留学生の方向けの授業を準備して日本語力や専門的な用語を学べるように準備をし

て日本語能力の指導をしている。

小野様

国家試験の合格率については保護者代表としては心配になりました。外国の方もそうですが日本の方でもメンタルに問題を抱えている方も多くなっているのでもそこのサポートも行っていたきたい。

→(西田)国家試験を不合格になってしまった方については卒業後もその方に合わせたサポートを行っています。

学園全体でも国家試験対策センターと連携をとってサポートしていく体制を作っております。

池田様

介護業界がここ 2, 3 年で大きく考え方も変わった。

海外の方が多くなったり介護ロボットなど業界としてどんどん変わっていくので自分たちの概念も変えていかなければいけないなと思っております。

就職では本人はやりたいという気持ちがあるが保護者という話も多く聞くようになっていく。工夫されていることがあれば聞きたい。

また職員の働き方で工夫されている事があれば聞きたい。

→(松川)働き方に関しましては ICT 化というところが大きく関わっていると思っております。

スケジュールの中でオンラインを取り入れたりというところで工夫や時間外労働についてもマネージャーがしっかり把握し、業務分担等を行っています。

(堀)福祉の学校に入学をするという際に保護者や高校から反対をされるというケースがあるのでしっかりと説明をしていくという事をおこなっています。優しい人が向いているのが福祉分野ではなく多くの方に向いている事があるんだよという事をもっと興味を持ってもらえるように仕事の魅力を伝えていくようにしております。

皆川様

キャリアデザイン科では学校の中で就労支援を行っているイメージなのかと思っています。

就職をした先がしっかり福祉業界でうまれているのかがとても大切だと思う。(障害者)手帳を取得して働くという道もあるが一般で考えたいのであれば受け入れ先を考えていくことも大切。国としても個別という事が大切とされているが学生の人数を考えるとそれなりのシステムやノウハウがないと難しいという風に思っています。

若松様

留学生の方の就労の定着状況の追跡調査などを行っていれば聞きたい。

3 月末までに未内定だった 35 名の方がどのようなところに就職をしたのか。

学校における新商品とはどのようなものなのか。

学校だけではなく地域等と連携をしてサポートして行くことが大切だと思う。

→(鈴木)卒業生に1年間で年3回ほどアンケートを取っているが学生全体で11名の離職(3.3%)となっているが留学生はしっかり働いているというデータとなっている。

一人ひとりによって状況が違っておりますが就職意欲がない学生や資格が取れなくて就職できなかった学生もいるのが現状です。例えば作業療法士ですとリハビリ助手として就職をさせていただいているケースもあります。毎日の面談を行い、その学生に続けられるように施設、病院にご協力をいただいている。

(松川) 学校では新学科を新商品と考えている。福祉の分野で新しい資格ができた場合には新しい資格を取るための学科作るという事をやっていく。もちろん社会の変化によってはあまり必要でなくなってくる資格もあるのでイノベーションをかけていくという事をやっています。

中里様

学生募集で入学される方が少ないので業界の視点で考えると心配になる部分がある。その仕事を選んでもらえるようにできる事をやっていかなければいけないと思った。

どういう体験を提供できるかをもう一度考える必要があると思った。

選んでいただいた方に以下に限られた時間の中で人間形成も含めてプロのしていく必要がある。

先生と学生の関係には限界があるので学生同士で支えあえる関係性がないとなかなか国家試験合格率も退学率もよくなっていかないのではないかと思います。

→(小川) 退学率は全国専修学校連合会の平均からは10%近く低くなっているが、滋慶学園の平均の5.1%と比べると6.6%は少し高いと思っている。

職業理解では仕事を撮影させていただき、そういうものを啓蒙に利用させていただく等リアルボイスをお届けできるようにしていきたい。

5. 終わりに(小川)

皆様のご意見は学園の事業計画に反映をさせていただいております。

我々が気が付かない視点を皆様からのご意見を事業計画に取り入れさせていただいております。

今後も何かございましたらご意見をいただけますと幸いです。

以上